

# サキユバスを召喚したら、

「オムツじゃあ、パイズリからね。」「おい見たこと無いの?」「オムツ交換の間は  
何もしなくていいのよ。」「サキユバス)にお股を  
は抵  
んん?」「  
んん?」  
「...あつ!」  
「オチ○チンがもう脈打ってるよ♥  
もう我慢できない?」  
「オムツを交換してあげて」



# オムツマンゾに調教された!

「あ! ああ!」  
「もちろん新しいオムツの前に  
お股をポンポンしてあげるね  
キレイキレイしないと♥♥♥  
交換中は暴れちゃ  
だよ♥」  
「...は...い」  
「お良かつね...君♥  
ほら...  
当然...」  
「暴れ...  
出来ないだろうけど♥♥」

## サキユバスの召喚法

魔法陣を描く。  
童貞の精液(2日分)とオムツパツクを  
魔法陣の中心に置いて裸になり  
首輪を首に巻いて、  
立つたままオナニーをする。

射精したらそのまま上を向き、  
魔法陣の中心に  
出したばかりの精液を垂らす。

「ぽぽぽ～んっ！  
呼んでくれたのは貴方？  
あ、その顔！  
好奇心で私を呼んじゃった？  
本当に私が出てくるとは  
思わなかったんでしょ！？  
そういう人多いんだよね～。  
でも…



もう絶対に、  
逃さない  
んだからね！」



「あれ？貴方、包茎じゃん！  
こんなんじゃ恥ずかしくて、  
女の子に告白出来ないよねえ。  
あ～、もしかしてえ・・・。

童貞捨てたくて  
私を呼んだクチ？」



「クスクス。顔真っ赤だよ？  
私は、貴方みたいな

童貞の、  
包茎男子  
大好き♡「だけどね」

「言っておくけど、  
ごまかしても無駄だよ？  
私、サキュバスだもん。  
童貞は匂いで分かるの。  
貴方は、間違いなく

童貞♥」



「しかもこの香りは、マゾっ！！！！  
優しく叱られると射精しちゃう  
タイプの童貞マゾ(笑)」

「…ぐ…ぐぐ…」

「私で筆下ろししたいんでしょ？」

「う…うく…

……………は…い」

「クスクス。じゃあ、パイズリからね。  
あれ、おっぱい見たこと無いの？  
軽く挟んだだけだよ？  
ずいぶん簡単に、マゾチ○ポ  
大きくなっちゃったね♡♡♡  
んん？」

「…あっ！」

「オチ○チンがもう脈打ってるよ♡  
もう我慢できない？」



「あ！ああ！」

「はい。1回目の射精、完了～♡  
おっぱいで筆おろし出来て  
良かったね♡  
ほら、童貞マゾ君♡  
仰向けに寝て！  
当然私は上！マゾは下だよ♡」

「…は…い」



「あ、童貞だからあんまり見たこと  
無いよね？  
私のおっぱい…、  
もっとじっくり見てもいいんだよ？」

「…はひゅんっ！」

「あ～、でも騎乗位されちゃうと  
それどころじゃないか(笑)。  
あ、今中出したでしょ♡」



「次からでいいから、  
射精する時は、  
『射精しちゃうう～』って  
申告してね♡」

「あっ！あっ！あっ！」

「情けな～く申告しないと、  
オチ○チン搾る回数を…

増やしちゃうぞ♡」



「クスクス。今また出したでしょ？  
しかもゴム無しの中出し♡  
申告しなかったから、  
罰として射精1回追加ね♡♡♡」

「くひっ、くひっ！！！」

「あれあれ～？  
急に抵抗してどうしたのかな～？  
あ、もしかして…♡」



連続で精液  
搾り取られるの  
怖くなっちゃった？」

「クスクス、今更抵抗したって

絶対に！

絶対に、

逃さないよ！」



「はい、射精3回め〜・」

「ふひっ！ふひっ！

お願い、許して・・・」

「もう降参？

情けないね〜 (笑)

もちろん、

許さないよ♡」